

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.5.19 vol.59

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

こんにちは！

本日は前線の影響で広い範囲で雨でしたね。

皆様、いかがお過ごしでしたか？

私たちは、朝6時に自宅を出て、
福島県郡山市にあるユーパ口室ノ木保育園さんで
紙芝居ライブを行ってまいりました。

昨年一度お伺いさせていただいたのですが、
園長先生から「また今年も来てください！」と
ご連絡をいただき、約1年振りの訪問となりました。

あんなに小さかった子ども達が
もうすっかり大きくなっていて、
「スターリイマンだー！」と覚えていてくれて
とても感慨深かったです。

また来年も！と先生方と笑顔でお約束して、
心がホッと温かくなる一日となりました。

さて、本日から「今を生きるスターリイマンの物語」の
第20話が始まります。

今回は、私たちの活動を長く応援してくださっている
広島のスターリイマンさんをご紹介します。

最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

☆第20話「今を生きるスターリイマンの物語」

東日本大震災への継続支援と地域医療の未来を支える

～第1話 医療法人長久堂 野村病院 野村院長ご夫妻との出会い～

2011年9月下旬。
一本の電話からすべては始まりました。

その電話をかけてくださったのは、
広島県広島市の安佐北区にある
医療法人長久堂 野村病院の野村美智子先生。

医療法人長久堂 野村病院 <http://www.chokyudo-nomura.or.jp/>

野村美智子先生と院長の野村真哉先生ご夫妻との出会いは、
1997年9月でした。

当時、夫のはせがわいさおは、
同年1月に発生した阪神・淡路大震災の
チャリティー絵画展に出展したことがきっかけで
版画作家として全国展開していただくことになりました。

その最初の展示会が広島市内で開催された時、
版画展開を行っていただくギャラリーの方から
「とても大事なお客様です」とご紹介いただいたのが、
野村先生ご夫妻だったのです。

お二人の可愛いお嬢さんと一緒に
お越しくださった野村先生ご夫妻とお会いして、
まるで幸せな家族像を絵に描いた様な
なんて素敵なファミリーなんだろうという印象を受けました。

野村先生ご夫妻は、絵画や音楽の愛好家で
すでに著名な作家さんの絵画をたくさんお持ちだったのですが、
スターリマンの作品をとっても気に入っていただき、
版画を2作品ご購入くださいました。

その後も、お二人のお嬢さんのお誕生日プレゼントとして
絵の中にお嬢さん達を描いた作品や、
野村先生ご夫妻の思い出のハワイのホテルを題材にした作品など
オーダーでオリジナルの絵を描かせていただきました。

ご家族の大切な記念日のお祝いに絵を贈るご家族って、
どんな心豊かな日常なんだろうと、私は思い描きながら、
一作品、一作品に想いを込めてタイトルを付けました。

その後、2006年1月に「コミュニケーションアート作品集～夢～」を
角川学芸出版さんから出版させていただいたことを機に、
これまでの商業的な展開から、
少しでも社会に貢献出来る活動へと転換するために、
所属していたギャラリーさんを同年4月に辞めました。

ギャラリーさんとの契約上、
ずっと応援していただいた全国のファンの皆様に
なぜ辞めるのかの理由や、お礼もお伝え出来ず、
大変心が痛みましたが、私たちにはどうすることも出来ませんでした。

それから5年後の2011年9月に、
野村先生が私たちのホームページをネットで検索してくださって、
東日本大震災で被災した子ども達に紙芝居を贈る活動をご覧になり、
お電話をいただいたのでした。

初めてお会いした時、中学一年生だった娘の祐希が
一緒に活動をしていることをとても喜んでくださいました。

野村先生ご夫妻も、医療従事者として、
震災直後から数々の東北支援をしていらして、
その中でご縁があった気仙沼市の双葉保育園さんの子ども達に
是非、笑顔を届けていただけたらとのお話でした。

私たちは本当に嬉しくて、3人で感動して涙してしまいました。

そして、2011年12月に双葉保育園さんを訪問し、
野村先生ご夫妻からのクリスマスプレゼントとして
紙芝居ライブと紙芝居とキットパスをお贈りさせていただきました。

それから、野村先生ご夫妻は、私たちの活動に
様々なご支援をしてくださるようになりました。

例えば、震災支援のためのスターリィマンカレンダーを
2011年からずっとご支援いただき、
学会でお越しになる先生方に毎年お渡しいただいています。

また、2012年の1月からスタートした
「被災地の未来を輝かす心の原風景」の復興祈念版画を
全10作品シリーズでご購入いただいて、
新しい作品が完成し、お手元に届く度に
真心のこもったメールをお送りくださいました。

(中略) 版画を眺めながら、震災前と現在の風景の違い、
人の手での復興は遅れがちですが
自然の力は大きいので震災前の風景に戻ってきているのでしょうか…
この一年間の変化、色々な思いが駆け巡ります。

七夕、幻想的な風景ですね。
最近、雨も多く、きれいな星空が眺められず残念です。
九州地方のような大洪水とはなっていませんが、
広島でも道路が冠水したり、床上浸水した地域もあるようです。
地球規模での異常気象、自然災害は今後も続くのでしょうか…
関東地方や東北地方に、水害がありませんように。

震災から2年が経過し、被災地では
少しずつ復興が進んでいる場所と手つかずの場所があるようですね。

本吉病院は、入院が3月11日より再開されました。
3月10日の情熱大陸で院長先生の取り組みが紹介されていました。
もともと内科のみで外来・入院診療だけであったのが、
外科処置、在宅の訪問診療、小児の診療、
産科の経過観察までも行う予定のようです。

私もお手伝いに行かせていただいた時には、
縫合処置、小児の診療も行いました。
その時に看護師さんが、前はお断りして
いた診療を現在は行っているとのことでした。
本吉地区唯一の病院なので、必要なことだと思います。

被災地のために頑張っておられる、はせがわファミリーにも、
被災地の方々にとっても、この2年間は激動の2年間であったと思います。
桜の開花とともに、本当の明るい春が訪れると良いと思います。
復興の速度が速まりますように。

新病院に版画を飾ることができるのを楽しみにしています。

私たちが気仙沼市で一番お世話になっている本吉町にある
本吉病院さんと野村先生達がつながっていらっしやると知り、
また深いご縁を感じました。

そして、ついに2014年6月に夫と娘が広島にお伺いする機会があり、
野村先生ご夫妻と念願の再会を果たすことができました。

ずっとメールでのやり取りでしたが、
野村先生のお心遣い、お言葉に、
これまでどれだけ励まされ、勇気づけられたことでしょう。

長い時間が経っても変わらない、
温かさやさしさが溢れる野村先生ご夫妻に
改めてご縁をいただけたことを幸せに思いました。

2014年秋に完成した新病院に置かれている6台の自動販売機には、「被災地の未来を輝かす心の原風景」の絵をプリントしていただき、売上の一部を被災地での活動にご寄付してくださっています。

http://www.chokyudo-nomura.or.jp/about/measure/#sec_01

一つ一つ思い返してみると、本当に不思議でなりません。
スターリマンの絵をいつもそばにおいていただき、
家族の絆を育てていらした野村先生ご夫妻と
時間を超えて、またこうしたタイミングで
再会できるんですから。

出会えてよかったと心から思います。

そして、出会えたからこそ続いていく
輝く希望の未来があるのだと信じて、
これからも、と一緒に風船を届けてゆけたらと願っております。

感謝をこめて…

「今を生きるスターリマンの物語」
☆第20話の第2章は、5月29日(土)配信予定です！

野村先生ご夫妻との出会いは、
いかがでしたでしょうか？

先月4月2日～3日と野村先生ご夫妻に
インタビューをさせていただくために
私たちは広島に3人で行って参りました。

野村病院さんは、昨年の8月に発生した
土砂災害の現場からほど近くにありますが。

未だ災害の爪痕があちらこちらに残っている中、
その傷を癒すかのように山桜が咲き始めていました。

野村病院さんは、昨年秋に新病棟が完成したばかりで、
病院内が優しい温かさに包まれていて、
はじめて野村先生ご夫妻にお会いした時の
あの柔らかい空気が流れていました。

院長室にお招きいただき、私たちを出迎えてくれたのは、
何とスターリマンの人形でした！

ご自宅からわざわざお持ちくださったそうで、
ずっとスターリイマンと一緒に過ごしていただいていたと思うと、
感動で胸がいっぱいになりました。

そして、今回の出会いの原稿をまとめるにあたり、
改めて野村先生からいただいたメールを読み返し、
「はせがわファミリーにも、被災地の方々にとっても、
この2年間は激動の2年間であったと思います」との一言に
東北での活動の月日を思い返して、涙が溢れてしまいました。

野村先生ご夫妻も東北の支援をされていたからこそ、
私たちの日々を心で受け止めてくださったのだと思いました。
本当にありがとうございます。これからも頑張ります。

さて、次回は「今を生きるスターリイマンの物語」
第20話の第2章をお送り致します。

配信は、5月29日(土)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

今月3回目の福島への活動として、
5月30日(土)に福島市立図書館さんの開館30周年と
福島市立松川学習センターさんの開館を記念して、
両館で紙芝居ライブをさせていただくことになっています。

そして、先日皆様にご報告させていただいた
横浜の氷川丸に寄贈いたしました作品の朗読と
親子向けワークショップのイベントを
7月24日に開催させていただくことが決まりました。

是非、多くの皆様にお出でいただけましたら
嬉しく思っております。

イベントの詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

それから、ネパール大地震で被災した
ヒマラヤ小学校さんへの支援金として、
オリジナルぬり絵の売上をヒマラヤ青少年育英会さんへ
ご寄付させていただくことにいたしました。
<https://dream.stores.jp/#!/items/554ff4b12b349219ed00467b>

5月2日のキットパス勉強会では、
皆様から4400円分のご支援をいただきました。
5月末までの売上を一度ご寄付したいと思いますので、
どうか温かなお気持ちを宜しくお願い申し上げます。

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、
誠にありがとうございます☆
次回の配信までお元気でお過ごしくださいませ！

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

発信元：はせがわ芳見

〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2

TEL/FAX：048-671-7708

HP：<http://www.dream-hasegawa.com>

blog：<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.5.29 vol.60

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

今週は暑い日がずっと続いていましたが、
皆様お変わりございませんか？

昨夜観たお天気予報では、
沖縄より北海道や東北の方が最高気温が高い！

南北に長い日本列島の季節の移ろいが
段々と失われつつあることを憂うばかりですが、
日本の四季折々の美しさ、輝きを失わずに
これからも大切にしていきたい…

本日は、そんな願いと共に「今を生きるスターリイマンの物語」
第20話の第2章をお送りいたします。
最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

☆第20話「今を生きるスターリイマンの物語」
東日本大震災への継続支援と地域医療の未来を支える

～第2章 医療法人長久堂 野村病院 野村院長ご夫妻の家族の原風景～

Q1. お二人のご家族について教えてください。

野村真哉院長先生>>>

私は昭和33年9月2日に、鳥取市で生まれ育ちました。
旧姓は浜崎と言ひ、父は国鉄マンで、母は看護師でした。
兄妹は3歳下の弟がいます。

父と母は、父が入院した時に、
看護婦の母と知り合い、結婚したそうです。
(母の頃は看護婦と呼ばれていました。)

ぼくは高校生の時に、看護婦の母の影響もありまして、
漠然と医師になるのも良いなあと思い、
大学は鳥取大学医学部に進みました。

大学1年生の時に、父が肝臓癌で亡くなって、
ぼくは看護婦の母のおかげで卒業しました。

野村美智子先生>>>

私は、昭和32年3月7日、広島県呉市の母の実家で、
外科医の父に取り上げてもらって生まれました。

父は(現)広島大学医学部を卒業してから、単身で17年間、
アメリカのハワイやボストンで外科医として勤務していました。
母と3歳上の姉と私は、母の実家で暮らしていました。

私が物心ついて父と初めて会ったのは、幼稚園の時でした。
小学1年に入学してすぐに、呉市から
父の勤務先の広島大学病院の近くに引っ越しました。

幼稚園のころは看護師さんになるのが夢でした。
姉は医師になるようにと言われていましたが、
私は何になってもよかったそうです。

中高一貫校の女子校に通い、大学は鳥取大学医学部に入りました。

Q2. お二人が出会い、医師になるまでの経緯を教えてください。

野村真哉院長先生>>>

ぼくと彼女は、鳥取大学医学部で出会い、
(名字が)浜崎と野村で出席番号が近いということもあり、
同じ班になって、そこからお付き合いが始まりました。

大学を卒業して、ぼくは美智子の父の同門の
広島大学第2外科に入り、外科医になりました。

美智子も1年間同じ外科に勤務していたのですが、
外科で女医の受け入れる病院がなくて、
広島大学の麻酔科で研修することになりました。

現在の医療法人長久堂野村病院は、
もともと美智子の父である野村節夫が、
昭和51年に19床の野村外科医院を開設し、

その後、医学部に行っていた娘たちが帰ってくることを期待し、平成元年に長久堂野村病院としました。

その2年後の平成3年、院長だった父は急死してしまいました。当時、非常勤医師として長久堂野村病院で勤務していたぼくが、院長になりました。ぼくが35歳の時でしたから、今年で24年になりますね。

最初は、鳥取大学医学部に合格する前に、自治医科大学に合格したんです。その受験の時に、あなたはどんな医師になりたいですか？と面接で聞かれました。

その時に答えたのは、的確な診断ができる医師になりたいと当たり前なことしか言えませんでした。

外科医になった時は、難しい手術が出来る外科医に。最近はそのような手術はしませんから、先を看取るとか。いかに死んでいくか。生かす治療をしているんですが、死んでいくのも治療かなと。

通常の治療は亡くなったら敗北というところがあるんですけど、亡くなって敗北でなくて、力になれることはいくらでもあって、亡くなることに対して、上手に診ていこうと思っています。

野村美智子先生>>>

私は、医師になって1年目の患者さんのことは、心に残っています。

大学病院だったので、ほとんどの方が癌の方で、急変とかもあって、上の先生の指導を受けながら診療をしていました。

当時は、完全に告知する時代でなくて、肺がんの患者さんから、薬は抗がん剤ではないかと、質問されることがありました。

患者さんは抗がん剤だとわかっているんですよ。告知はその人の性格、年齢とかを考慮して告知する必要があると思います。

野村真哉院長先生>>>

ぼくの母は、2年前に膵臓がんで亡くなりました。看護師だったのと89歳で、それにもうすでに肝臓に転移していたので、これは伝えたら、ただ苦しいだけだからと、言うのは辞めようと、まったく伝えませんでした。

告知、非告知はあまりこだわらない方がいいんじゃないかな。完全に進行した人やお年寄りには非告知の方が幸せだと思います。

Q3. 東日本大震災の被災地で行った支援活動について教えてください。

野村美智子先生>>>

私は、日本プライマリ・ケア連合学会が立ち上げた
東日本大震災支援プロジェクトPCAT（ピーキャット）に登録していて、

PCAT 東日本大震災支援プロジェクト <http://www.pcat.or.jp/>

その関係で（2011年）8月に福島県飯館村に住んでいた方の検診と、
9月、（2012年）2月に気仙沼市立本吉病院へ一泊二日で診療に行きました。

本吉病院は、以前は高齢者の方が多く入院している病院だったそうですが、
震災によって、周囲に診療所や病院がなくなり
地域のために、色々な機能をしていかないといけない状況でした。

小児、婦人科の診療や訪問診療なども開始しています。
研修医も研修に訪れ、コ・メディカルや
ケアマネージャー等と連携をとりながら、
震災前よりもレベルアップした地域の病院になっています。

PCATの活動の中に、メーリングリストがあって、
キャンナス（全国訪問ボランティアナースの会）の人たちの情報提供から、
気仙沼市の双葉保育園の子ども達をディズニーランドに
連れて行く企画があることを知り、ホテル代を支援しました。

この双葉保育園さんには、クリスマスプレゼントとして、
（2011年）12月にスターリィマン紙芝居のライブと紙芝居を
はせがわファミリーさんにプレゼントしていただきましたね。

あと、当院としての支援も行いました。
日本医師会のJMAT（ジェイマト）という災害医療チームが、
災害の時にすぐ活動を開始していて、
4月初旬に当院の職員2人と院長が石巻での医療活動に参加しました。

その時に、日常生活が難しい高齢者や障害者のリハビリを支援するため、
当院の理学療法士がしばらく滞在して、関連機関との連絡を取りました。

その関係で、桃生に福祉避難所を立ち上げるためにベットが必要ということで、
約30台のレンタルベットを（2011年）5月から9月まで継続的に提供しました。

その確認のため5月に桃生福祉避難所に出かけました。
震災から2カ月後だったので、交通手段は古川まで新幹線で、
そのあとはタクシーで桃生に行ったのですが、
帰りに石巻によって、その悲惨さに衝撃を受けました。

色々なものが流されていて、そして全然片付いてなくて。
あの光景を写真に撮るのはためらわれたので、ほとんど撮影していません。

タクシーの運転手さんは、女川原発の作業員さんの送迎をされている方で、色々なお話も聞かせていただくことができました。
こういう場所での医療活動は、大変なことだと思いました。

他には、9月の約2週間、リハビリテーション関連で、
気仙沼のホテル観洋にあった福祉避難所に、
当院の理学療法士と作業療法士が支援に行きました。

野村真哉院長先生 >>>

広島県医師会は、宮城県を支援することになっていて、
広島市は牡蠣つながりで、石巻市の支援に入ったんです。

当院のような小さな病院で、支援に行くなんて普通ないんですけど、
この地区でぼくは、緊急とか災害とかの担当をしているものですから
医師会がやっている災害医療に関しては、いつでも行くよと言っていますので。

行かせていただいて、支援させていただいたというより、
逆にぼくが被災された皆様に、頑張って大変だねって、
慰めていただきました。

他の医師達もみんな気持ちは行きたかったそうですよ。
でも行きたくても、やみくもに行ってもお手伝いにならないので、
やっぱり組織に入って動くことが大事だと思いました。

だけど実際、昨年の8月に広島で土砂災害が起きて、
この地域でやっていた災害対策が、たいして役に立たなくて反省しているんです。

阪神淡路大震災からずっと準備はしていて、
やっているんですけど役に立たなかった。悔しかったですね。

なかなか東日本大震災へのその後の支援は難しいので、
スターリィマンプロジェクトを応援させていただいております。

Q4. 今後の展望や未来像について教えてください。

野村真哉院長先生 >>>

一番は地域医療ですね。
日本中の人を治せるとは思っていません。

医療でも介護でも福祉でも、この地域で望まれる医療をするのが、ぼくの医療の使命です。

ぼくたちができることは全部やろう。それに尽きます。

まあ、医師としてそれぞれにやりたいことってありますが自分の専門性を活かしながら、この地域で必要とされるもの、美智子先生の場合は、ペインクリニック、麻酔だったり、リハビリを今は一生懸命にやっています。

やっぱり地域性があって、見ていただいた通り、この辺りはちょっと田舎なんですね。だから考え方が都会とやっぱり違うみたいです。

例えば単純な言い方をすると、病室で入院された時に、個室ありますかといわれるのが都会の人。お金がかからないお部屋がありますか？と言うのがこの辺の人。それでも、だんだん個室を希望する人も増えつつはありますが。

安佐北区は、高齢者が多いんです。だから在宅に関わらないといけないですし、国が考えている全機能別の病院は、どの地域にもあてはまるものではないですね。

田舎に行けば行くほど、すべての機能を果たさなければいけないのですが、すべての機能を果たす病院って、評価が低く、診療報酬も低いんです。

必要があれば、専門に特化した病院に紹介するんですけど、そうじゃない場合は、全部診ていて、必要な治療を最後まで出来るような病院の機能がある程度備えなければいけないのかなと思います。

この地域は、お一人で、核家族で、2世代3世代で住んでいる人など様々で、独居の人は、いわゆる孤独死もあって。

ぼくらは警察に検死を依頼されて診に行くのですが、この地域でも増えているみたいですね。

一人でいるのが好きな人もいるから、お一人様でも良いんじゃないかと。でもあんまり迷惑かけないようにしようとか、一人で死んだらどうなるとか。その辺の勉強会をしようと考えています。

お一人様の方に対して、こちらはいつも見ているよ…と寄り添うことが大切だと思います。

病院を新しく建て替えたのは、もう旧病院は建ててから36年で、30年過ぎて建物は限界でした。

東北の支援などもありましたので、
建てていかれるだろうか、
いや建つんだらうかと思いましたが、
急性期の一般病棟と長期療養の療養病棟、
約半々で合わせて79床の病棟を造りました。

来院される方からきれいになったですねと言われたり、
職員も気持ちも明るくなりました。

当院には常勤医師が4人いまして、院長のぼくが外科医、
美智子が麻酔科医とペイクリニック、
美智子の姉が内科、姉の夫が整形外科と。
この地域のニュースには応えられるだろうと思っています。

私たちの2人の子ども達も現在それぞれ医大に行っていて、
姉のところも2人の子供がいますので、
そのうち、8人の医師でということもありますね。（笑）

それから、今年は戦後70年のという節目の年なんですけど、
広島の方は、広島に原爆投下された8月6日8時15分と、
長崎に投下された8月9日11時2分は、どこにいても、
車で走っていても止めて、黙とうを捧げます。
他の県はしませんよね。

小学校では、原爆の勉強をしたり、うちの娘も長崎や沖縄にも行って、
平和教育を受けているんです。

広島は原爆医療の最先端の地であるのに、あまり言わない。
例えば、今回、広島大学の救急部の教授が大学を辞めて、
福島医大の被爆医療の教授として、就任するんです。

戦後ずっと原爆医療研究所で、広島の前爆のことを研究をしていて、
被爆してどんな癌ができるのかずっと研究をしているのに、
世界的に広島は注目されているんですけど、あまり宣伝しませんね。

世界で一つの被ばく国ということ、
もっと広島は活かした方が良くと思います。

Q5. 先生方にとってのスターリィマンは誰ですか？

野村真哉院長先生>>>

ぼくは田坂佳千先生という、広島市内の内科医です。

TFCという家庭医療学研究会（現在の家庭医療学会）の会員を
主なメンバーとして1998年に立ち上げたメーリングリスト（以後ML）を通して、
多くの医師に医療のことを教え、励ましてくださった偉大な医師です。

TFCのMLは、家庭医療、プライマリ・ケアに関する話題を中心に、
家庭医は勿論のこと、多くの各科専門医や医学生が参加して
活発に議論、情報提供がなされていたり、
開業医と病院勤務医の相互理解を深める場ともなっています。

MLといえば、限定されたメンバーが自由に意見を交換し合う場ですが、
田坂先生は全てのメールに目を通し、注釈（質問、議論の展開、まとめ）をつけ、
そのメールに関連した事項について専門の先生方から、上手に意見を引き出し、
実り多い情報へと展開してくださったのです。

それは、一般のMLにはない運営方法で、数ある医療系MLのなかでも
秀逸なMLのひとつだと思っています。

また、田坂先生はプライマリーケア医としての見識が高く、
かつ常連投稿者の質も大変高いのでMLを読むだけで
医療の質を高めることができるのです。

しかし、残念な事に、田坂先生は、2007年2月に急逝されました。

秋川雅史さんの千の風になっての歌の歌詞に、
「私のお墓の前で 泣かないでください
そこに私はいません 眠ってなんかいません
千の風に 千の風になって
あの大きな空を 吹きわたっています」とありますが、

自院の診療、老人ホームの配置医、苦情処理などの
多岐にわたる医師会理事職、学生指導…
常人の三倍から四倍の仕事をこなしていた田坂先生は、
お墓にじっとしてられるはずがない。

あまりにも「そのまんま」。
私はこの歌を辛くて唄えません。

野村美智子先生>>>

私のスターリイマンは、父の野村節夫ですね。

この病院の創設者でもあり、ここを築いてくれました。
毎年行うオリエンテーションで、
私たちが野村節夫から引き継いでいるものを伝えるページがあります。

外科・整形外科等の手術も沢山行っていて、
ボストンやハワイの病院に勤務していました。

ボストンで指導を受けたDr.ボイドから、
病院を開業する時の記念に、彫刻を頂いています。

この地域でも、手術がとても上手な先生だったと、
今でも職員へ話をされる患者様もいらっしゃるようです。

「今を生きるスターリイマンの物語」
☆第20話の第2章は、5月29日(土)配信予定です！

野村先生ご夫妻の家族の原風景は、
いかがでしたでしょうか？

「子は親の鏡」と言いますが、
私が初めて野村先生ご家族とお会いした時、
とっても素敵なお家族だなあと感じた背景には
創設者のお父様の遺志を受け継ぐ尊い姿があったのだと、
インタビューをさせていただき気づきました。

絵の中のスターリイマンが歩いたその後ろには、
キラキラと星が光り輝いています。

私たち自身もスターリイマンのように、
歩んできた道に何らかの輝きを残してゆけるように、
そして、それが後に続く世代にとっての
道しるべになるような人生を送っていただけたら素敵ですね。

それがここに生まれてきた大切な役目なのかも知れません。

さて、今回は「今を生きるスターリイマンの物語」
第20話の第3章をお送り致します。

配信は、6月9日(火)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

明日5月30日（土）は、今月3回目の福島への活動となります。

今回は、福島市立図書館さんの開館30周年と
福島市立松川学習センターさんの開館の記念に
両館で紙芝居ライブを開催させていただきます。
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

この企画を主催して下さった
福島市書店協同組合の小林専務理事は、
福島市内の老舗の本屋さんである
西沢書店の常務取締役をなさっている方です。

小林専務理事とのご縁は、この3年間、
福島の子ども達への活動をご一緒させていただいている
福島キワニスクラブの柴木さんから繋いでいただきました。

一つ一つの想いや時間を共有させていただく中で、
深い信頼関係を築いてこられたからこそ、
子ども達へ紙芝居をお届けすることが出来るのだと
あらためて感謝でいっぱいです。

さぁ！今日も頑張ろう！
明日は子ども達とどんな出会いが待っているんでしょう！
とっても楽しみです。

また、7月24日（金）は
横浜の氷川丸に寄贈いたしました作品の朗読と
親子向けワークショップのイベントがあります。

是非、多くの皆様にご参加いただけたら嬉しく思っております。

イベントの詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、
誠にありがとうございました☆

もうすぐ6月になりますが、
皆様、素敵な日々をお過ごしくださいね。

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.6.9 vol.61

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

関東も梅雨入りとなりましたが、
皆様お変わりございませんか？

数週間前、玄関の前にある山椒の柔らかい新芽に
アゲハ蝶の幼虫がふ化しました。

そのままにしておいたら2日程で、
青々と茂っていた山椒の葉がほとんど無くなって…

いつの間にか幼虫の姿が見えなくなったと思ったら、
一昨日、窓の外に2羽のアゲハ蝶が仲良く舞いました。

きっと「ありがとう」を伝えに、
美しい姿を見せてくれたのでしょうね。

巡る季節の中で、輝く命との一瞬の出会いから
私たち人間はたくさんの命に支えられ、
幸せを共有しながら共に生きているのだと気がつき、
このような日々を大切に過ごしていきたいと思いました。

さて、本日は「今を生きるスターリイマンの物語」
第20話の最終章をお送りいたします。

最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

☆第20話「今を生きるスターリイマンの物語」
東日本大震災への継続支援と地域医療の未来を支える

～第3章 医療法人長久堂 野村病院 野村院長ご夫妻の
スターリイマンに宛てた感謝の風船レター～

私のスターリィマン 田坂さんへ

田坂さんは2007年に49歳の若さで
急逝されたお医者さんです。

広島市の三代目の開業医さんで、
TFC（ティーエフシー）という
医療系のメーリングリスト（ML）を主宰され、
亡くなられたあとも田坂さんを慕うメンバーで
MLが運営されています。

もう8年が経ってしまいましたが、
田坂さんのTFCは健在で、プライマリーケア、
病診医の連携、学生・研修医の参加、
開業医の勉強に対するモチベーションの維持など、
田坂さんが目指していた「医療の井戸端会議」が続いています。

MLといえば、限定されたメンバーが
自由に意見を交換し合うのですが、
田坂さんは全てのメールに目を通し、
注釈(質問、議論の展開、まとめ)をつけ、
そのメールに関連した事項について
専門のお医者さんから上手に意見を引き出し、
実り多い情報へと展開していましたね。

あれを「モデレート」というのを田坂さんの死後に知りました。
大変な作業でしたね。でもあの頃はメールが届くのを、
いまかいまかと毎日心待ちにしていたんですよ。

今なお、新しい会員をTFCのメンバーが推薦し、
幹事会の賛成で入会してもらっています。

病院の先生だけでなく、研修医や医学生さんも
どんどん参加しています。

最近では学生さんも「勇気を持って」発言してくれて、
多くのTFCメンバーがその発言に暖かく反応しています。
田坂さん、学生さんや研修医の指導が大好きでしたね。

最近のICT（コミュニケーション）の主流が、
テキスト系のMLから写真や動画を直ぐに見ることができる
ビジュアル系のLINEやFaceBookなどに移りつつあります。

文字（テキスト）を主体とした議論が廃れつつあるのではという危機感を持っています。

もしかしたらこれは世代交代（テキスト系の議論→ビジュアル系のコミュニケーション）が起こっているのではないかと考えています。

今年6月沖縄で開催されたmlml（ミルミル）1)でもその話しをしました。

mlmlを再来年広島で開きます。
丁度田坂さんが亡くなられて10年になります。

田坂メモリアルレクチャー2)とともに、「MLの今後を考える会」を開いて、TFC、mlmlのメンバーで考えて行こうと思います。

きっと千の風になってあの大きな空からみんなを見守ってくれていますね。

ありがとう

平成27年6月9日

野村真(しん)

1)mlml（ミルミル）：医療系MLの集まり
定期的にオフ会を開催している。

mlml(ミルミル)ってナンダロ
<http://www.cminc.ne.jp/off/test2/mlml1.htm>

2)田坂メモリアルレクチャー：田坂さんの死後、
TFCのメンバーによる広島での勉強会。
学生、研修医だけでなく、勤務医や開業医も聴講できる。
生涯学習の場。

お父さんへ

昨年末からはお母さんと一緒に、
賑やかに過ごしていることと思います。

新病院が昨年9月に完成し、旧病院の解体後の整備も終わり、
2月下旬に新病院の全面引き渡しを受ける事が出来ました。

お父さんの残していった3つのテーマは、
新病院でも生き続けています。

新病院になって、救急搬入は以前よりも増加し、
救急医療も引き続き頑張っています。

最近では、「此处は夜でも診療しているから」と、
突然受診される患者様もいらっしゃいます。

社会貢献も、行っていきたいと思っています。

今でも、検死の依頼があります。
日中は各々診療があるので、
時間外や休日に依頼を受けて出かけています。

時代の流れか、孤独死も見受けられますが、
若い世代が戻ってこない山間部もあるので、
仕方ないのかもしれない。

その土地で、頑張って生活していくことが出来る体制作りも必要です。

梅雨時期になり、今年も土砂災害が心配されますが、
どのような状況でも速やかに医療活動が行える病院でありたいと思います。

東日本大震災の状況とは違って、
生活圏も保たれている直ぐ側での災害で、
範囲も狭い地域でもあっても、色々な問題がありました。

災害時であっても、医療を必要としている人に、
適切な医療を提供出来る体制作りも必要です。

もう少しすると七夕です。
お父さんが星になってしまった時期に、
短冊が沢山付いた七夕飾りを病院に飾っていましたね。

それ以後、病院では七夕の飾りつけは行わなくなりました。
他の季節はとても華やかな飾りを行っていますが、
七夕の飾りは誰も行おうとしません。

外来のロビーに飾っているスターリィマンの絵を見ていて、
今年は七夕の飾り付けも良いのではと思っています。

ホスピタリティーも、引き継いでいく大切な3つめのテーマです。

子ども達も各々、大学で医学を学んでいます。
お父さんの残した3つのテーマは
お父さんの孫達にも引き継がれていくと思うので、
見守っていて下さい。

平成27年6月9日

野村美智子

「今を生きるスターリィマンの物語」
☆第21話の第1章は、6月19日(金)配信予定です！

野村先生ご夫妻のスターリィマンに宛てた
感謝の風船レターはいかがでしたでしょうか？

前回のメルマガのインタビューの際に、
野村院長先生に今後の展望をお聞きした時に、

「一番は地域医療ですね。
医療でも介護でも福祉でも、
この地域で望まれる医療をするのが、
ぼくの医療の使命です。」

とおっしゃっておられました。

今回のお手紙を拝見させていただいて、
田坂佳千先生と野村節夫先生の遺志を
私たちがしっかりと受け継いでいく。

その強い意志を感じ、今も尚、生き続けている
お二人のスターリイマンに感動でいっぱいでした。

さて、昨年の秋に出来た新しい病院の記念にと
スターリイマンの絵をご依頼いただき、
昨日、野村病院さんにお納めしました。
<http://starryman.cocolog-nifty.com/>

私は、野村先生ご夫妻の想いを込めて、
タイトルとストーリーを描きました。

「ともに生きる願い」

この広島の下
支え合い 助け合い
ともに生きている

大切なふるさとの
家族のような
かけがえのない人々

みんなの心と体を支えるため
私たちはいつも
温かく寄り添いながら

「希望」「元気」「勇気」「夢」「愛」
「友情」「未来」「信頼」「幸せ」の
スターリイマンの
9つの風船を届けてゆこう

幾度と季節が巡っても
ずっとずっと変わることはない
私たちの願い

また、これから先もずっとずっと
この作品と共にみんなの願いを叶える
スターリイマンの9つの風船が
広島の下で千の風になって、
生き続けてほしいと祈っています。

野村先生、素晴らしいご縁を
本当にありがとうございます。

さて、今回は「今を生きるスターリイマンの物語」
第21話の第1章をお送り致します。

配信は、6月19日(金)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちしております☆

☆後 記☆

先月30日(土)は、福島市立図書館さんの開館30周年と
福島市立松川学習センターさんの開館の記念に
両館で紙芝居ライブを開催させていただきました。

両館ともご来場いただいたお子さんから大人の皆様に
スターリイマン紙芝居をととても喜んでいただいて、
とっても温かい時間を過ごすことが出来ました。

ご参加の皆様の喜んでいただいた笑顔を見て、
福島市立図書館の佐藤館長さん、鈴木係長さんを始め、
職員の皆様が、満面の笑顔になられて、
またまた感動でいっぱいになりました。

また、福島市書店協同組合の小林専務理事さんを始め、
福島市内の西沢書店の皆様、準備から後片付けまで
大変お世話になりまして、ありがとうございました。

見えなくなるまでずっと手を振って見送ってくださっている皆様に、
「また、伺います」と心に誓いました。

また、7月24日(金)に開催する横浜の氷川丸でのイベントに向けて、
今、色々な方が告知のご協力をしてくださっています。

たくさんの方々に応援していただき、
いつも有り難く思います。
是非、多くの皆様にご参加いただけたら嬉しいです。

イベントの詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、
誠にありがとうございました☆

これから毎日梅雨空が続きそうですね。
皆様、お身体にお気をつけてお元気でお過ごしくださいね。